

創

—第90回—

いくせいそう
幾星霜を煌めく命

幾星霜を煌めく命。これは大人気漫画『鬼滅の刃』の最終話のタイトルです。この言葉には人の心を揺さぶる何かがあります。「過去」に思いを馳せ、「今」を大切に生き、「未来」へ希望をつなぐ。そんな意識を感じるからでしょうか。市政運営にもその意識は大切です。『今』だけの理由や判断で未来を担う人々が不自由さや苦しみを味わう事がないか、という意識をもつという事だと思えます。それが愛情だと思えます。



別府市長
長野 恭紘

しかし、別府市の今の財政状況は非常に良好で、何かを犠牲にして捻出したものではありません。金額に合わせて規模を縮小したらどうか、との指摘もありました。しかし11回もの市民会議を開催して必要な機能をギリギリで確保したものです。お金だけの問題でその想いを消したくありませんでした。また、物価高騰は収まる気配がなく規模縮小の設計変更をしている間に、変更したものでさえ金額が合わなくなるという可能性が大切です。

そして最大の理由は、未来の子ども達も使うこの新図書館を物価高騰を理由に陳腐なものにしてはならないという気持ちです。新図書館は、単に本を読むだけではなく、子ども達を中心に新たな居場所になり、様々な問題解決の拠点になり得る仕様になっています。お金に換算できない価値を創造する場になるよう、最後まで努力します。

(11月8日執筆)

フォトベっぷ



幸せを実感できるまちを目指して—10月12日、ピーコンプラザで「第1回みんなで話そう 別府市政フォーラム」を開催しました。分かりやすく伝えることを念頭に市長と職員が対話形式で様々な施策について説明しました。



実りの秋を体感—10月21日、22日に別府公園で毎年恒例の「おきたみのりフェスタ」が開催されました。農林部門と水産部門の合同開催により、地元の農産物や収穫物を求める多くの来場者が訪れました。また、ステージでは様々なパフォーマンスも行われました。



竹と光に包まれて—10月28日、別府市竹細工伝統産業会館で「第23回竹と月夜の調べ」が開催されました。浮灯ろうや竹のオブジェ、竹灯ろうが飾られ、来場者を出迎えました。琴や篠笛での演奏やダンスなども披露されました。



マーチングの聖地「別府」—10月28日、29日に「マーチング・カーニバル in 別府」が開催されました。前夜祭とオープニングパレード、マーチングフェスタでは、多くの学校や団体が演奏とパフォーマンスを披露しました。華やかな様子に沿道の観客たちも楽しんでいました。